天遊 TenYou

大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

Summer 2017 Vol.42

新任副学長紹介
和田 良彦 副学長

ラボ訪問

STUDENTS NOW!

卒業生CATCH!

BAGの中身

附属学校園ウォッチ

ゼミ室こぼれ話

TOPICS

特集 「ReBorn 2017」

大教大NAVI

アプリを利用すれば、今号の「天遊」に関連した動画が視聴できます。

「大教大NAVI」アプリをダウンロードして、左記のアイコンと同じボタンをアプリ内でタップするとカメラ画面に切り替わります。次に左記のアイコンをカメラに読み込ませると、動画が視聴できます。
詳しいアプリの使い方はホームページをご参照ください。

国立大学法人
大阪教育大学

生まれ変わった、大阪教育大学

ReBorn 2017

Osaka Kyoiku University

近年グローバル化をはじめとする社会の急激な変化とともに、
学校現場が抱える問題も複雑化しています。
今後、教育界で求められるのは、
現場での課題を解決できる実践力です。
全国有数の教員養成大学として、
学校教員を中心に約6万人の卒業生を
輩出してきた大阪教育大学は、
これからの教育現場に必要とされる教員を養成すべく、
2017年、新たな組織としてReBorn＝生まれ変わりました。

MESSAGE

大阪教育大学 学長　栗林 澄夫

現代の学校現場は様々な課題を抱えています。ベテラン教員の大量退職にともなう若手教員の育成は急務であり、さらに教員の多忙化、学校種別間の接続など、問題は山積しています。本学はこれまで個別教科の専門性を重視してきましたが、こうした現状に対応するべく、現場での実践力を高めるための新たな組織に生まれ変わりました。

具体的には、教科が中心だったこれまでの教員養成課程を再編しました。初等教育教員養成課程では、幼稚園から小学校への移行がスムーズに進むことを念頭にカリキュラムを作成しています。学校教育教員養成課程は、教科に強みを持ち、小中一貫・連携教育をリードする人材を育てる小中教育専攻、中学校と高校の接続に対応する中等教育専攻、特別支援学校だけでなく通常の学校でも広く求められている特別支援教育専攻の3つの専攻に改めました。

また、教養学科に代わり教育協働学科を新設。「チーム学校」の中心メンバーとなれるような、学校や社会と協働できる人材を、6専攻体制で育成します。

複雑化する現代社会の中でも、「人が生まれ、育ち、社会的な役割を果たす」ことは不変であり、学校教育の必要性がなくなることはありません。教員や教育に関わる仕事をめざす人には、社会を構成する最も基本で、かつ必要とされる仕事に自分が携わっているという自覚と意欲、そして使命感を持ってほしいと願っています。

教員養成課程の再編

これからの学校現場で必要とされる教員

●POINT
幼稚園と小学校の連携、小学校と中学校の一貫教育、中学・高校の接続に対応する中等教育など、幅広い校種に対応できる人材を育成。「これからの学校現場で必要とされる教員」を養成する。

初等教育教員養成課程は、「幼児教育の現場と関わりつつ、学ぶ」スタイルで、創造的・体験的な側面を重視する幼児教育専攻。そして幼児教育からの接続を理解し実践力の高い教員を養成する小学校教育専攻（昼間・夜間）から構成される。教科や領域を問わず幅広い知識とスキルを身につけるための実践重視のカリキュラムを編成し、幼稚園・小学校教員のオールラウンドプレーヤーをめざす。

学校教育教員養成課程は、小学校と中学校の免許を取得できる小中教育専攻、中学校と高等学校の免許を取得できる中等教育専攻、特別支援と小学校の両免許を取得する特別支援教育専攻で構成される。教科や特別支援の専門的な指導力と実践力をつけ、小中一貫教育、中高一貫教育に対応できる人材育成をねらう。

近畿地区唯一の国立大学の養護教諭養成課程は、学校保健の中心的役割となれるような養護教諭を育てる。

平成28年度まで	定員数		平成29年度以降	定員数
▼柏原キャンパス			▼天王寺キャンパス※	
幼稚園	15	天王寺に移転	初等教育：幼児教育	15
▼天王寺キャンパス				
小学校5年（第二部）	40	新　設	初等教育：小学校教育（昼間コース）	45
小学校5年（第二部・3年次編入）（50）		昼間と連　携	初等教育：小学校教育（夜間5年コース）	40
			初等教育：小学校教育（夜間コース・3年次編入）（50）	
▼柏原キャンパス			▼柏原キャンパス	
学校教育：教育科学	60	小・中の連携	学校教育：小中教育（学校教育、国語、英語、社会科、数学、理科、家政、保健体育、音楽、美術・書道）	240
学校教育：教科別 小学校コース	計233	中・高の連携		
学校教育：教科別 中学校コース	計102		学校教育：中等教育（国語、英語、社会科、数学、理科、技術、家政、保健体育、音楽、美術・書道）	135
特別支援教育	45	教科と連携	学校教育：特別支援教育	45
養護教諭	30		養護教諭	30

（　）は3年次編入を表す。

※ 初等教育教員養成課程の幼児教育専攻及び小学校教育専攻（昼間コース）は、1～2年次を柏原キャンパスで履修予定です。

教養学科を教育協働学科に

地域と協働し、多様な教育課題を解決する人材へ

●POINT
総合的な教養に加え、教育マインドと専門性の高い能力を身につけ、学校を取り巻く地域や社会を含む「チーム学校」の中心メンバーとなる人材を育成。教育的な視点から学校・家庭・地域・社会と連携協働し、多様な教育課題の解決を図れるような存在をめざす。

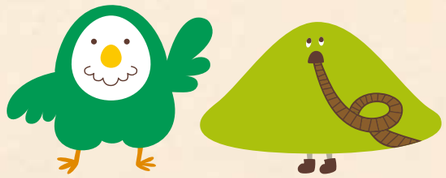
教育心理科学専攻では、チーム学校の活動の基礎となる教育学や心理学など、専門知識を身につけた教育、心理、福祉のコーディネーターを育成。健康安全科学専攻は、科学的な手法で社会の安全を守る健康、生活、安全のスペシャリストを養成する。理数情報専攻は、データに基づき科学的に評価・分析する能力などを養い、統合的な教育理系人材を育てる。グローバル教育専攻は、高度な英語スキルと広い視野を身につけ、グローバル時代の教育を支える国際人をめざす。芸術表現専攻は、芸術創造についての理解を深め、学校や地域と協働して新たな社会文化活動の創生に参画できる芸術表現者育成がねらい。スポーツ科学専攻は、専門性の高いスポーツ技術と指導力を身につける。子どもの育成・指導といった課題を中心に現代教育を理解し、汎用性のある基礎力と協働力を学ぶ。

平成28年度まで	定員数		平成29年度以降	定員数
▼柏原キャンパス			▼柏原キャンパス	
教養学科：人間科学	55	教育への理解	教育協働学科：教育心理科学	40
教養学科：健康生活科学	35	留学体験	教育協働学科：健康安全科学	35
教養学科：自然研究	60	広い視野	教育協働学科：理数情報 数理情報	40
教養学科：数理科学	40	協働力	教育協働学科：理数情報 自然科学	60
教養学科：情報科学	40	構想力	教育協働学科：グローバル教育 英語コミュニケーション	30
教養学科：文化研究	65	チーム学校として支える	教育協働学科：グローバル教育 多文化リテラシー	45
教養学科：芸術	75		教育協働学科：芸術表現 音楽表現	40
教養学科：スポーツ	35		教育協働学科：芸術表現 美術表現	10
			教育協働学科：スポーツ科学	50

未来を担う人材として養うべき能力「21世紀型スキル」をみがく

さまざまな教育課題を理解し、時代の変化に対応できる、「批判的思考力・問題解決能力・コミュニケーション能力・コラボレーション能力・情報リテラシー」などで定義される「21世紀型スキル」。近年、日本だけでなく海外でも知識偏重の教育から、こうしたスキルを養成する教育へ転換する動きが活発に見られます。

本学でも、学部組織の改革を通じて、協働力や創造力、構想力を育てる基礎の力であるこの21世紀型スキルを持つ人材を育成する体制を整えました。ここでは、グローバルな社会に対応できるコミュニケーション能力、情報通信技術（ICT=Information and Communication technology）を用いた情報処理の能力を伸ばす新しい取り組みをご紹介します。



グローバル化の推進

柔軟な学年暦を導入し、海外留学の機会を増やす「2学期4ターム制の導入」

短期集中型授業による重点的な学修を行うこと、海外留学など学外での活動を促進することなどを目的として、平成29年度より2学期4ターム制を導入しました。従来の2学期制に、1年間を第1タームから第4タームまで、4つの区分に分ける4ターム制を導入。これまでの学期毎の授業に加え、ターム毎に開講する科目を設置しました。今後、成果の検証と課題を踏まえて、開講科目を順次拡大していきます。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前 期					休業期間	後 期					休業期間
第1ターム		第2ターム			休業期間	第3ターム		第4ターム			休業期間

日常からグローバルな感覚を磨く「山本国際学生宿舎」

日本人学生と留学生が入居できる混住型宿舎として「山本国際学生宿舎」が完成しました。1住戸を2名または3名で住むシェアハウス型で、日本人学生はレジデンス・アシスタントとして留学生の生活学習相談にのり、サポートします。世界各国から集まる留学生と日本人学生が共に暮らし、日常的に交流し学びあい、多様な国際感覚を磨くことのできる本学初の混住型の寮です。

向井 康比己 副理事・副学長（研究・国際担当）

これまで本学では、グローバル化に対応できる広い視野とコミュニケーション能力の育成に、積極的に取り組んできました。2017年7月現在、国際交流体制として、アジアと中心とした海外19の国と地域、48大学と交流協定を結んでいます。海外留学を後押しする仕組みを充実させ、意欲ある学生を送り出すことに力をいれています。また、外国人留学生の受け入れを促進し、キャンパスのグローバル化を図っています。今回新しく整備した山本国際学生宿舎も、国際交流の場として、本学のグローバル化推進の一端を担ってほしいと考えています。今後も、留学生とともに学ぶ環境を整備し、国際社会で活躍できる人材を輩出していきます。

Pick Up

語学学習の強い味方「外国語学習支援ルーム」

専任スタッフが、学生の能力やニーズにあわせたアドバイスを行い、英語を中心とする外国語学習を支援します。

- 語学の自律学習をサポートする学習相談
- 留学生による英会話チャットなどのイベント
- 外国語学習教材の閲覧・貸出
- 留学相談

ICT活用力を高める

ICT教育のさらなる前進を「ノートパソコン必携化」

平成29年度学部入学生より、ノートパソコンが必携となりました。

個人のノートパソコンをインターネットに接続できる学内環境を整備し、ノート作成、講義資料の閲覧など授業での活用を進めていきます。また3、4年次になると専門的な研究、卒業論文の執筆、就職活動などでパソコンの利用は不可欠です。2020年には小学校でプログラミング教育の導入が予定されており、学校現場でICTの活用が一層進むと考えられます。企業においても、あらゆる職種でパソコンを利用することになります。

学生生活を通して基本的なICT知識や技術を身につけ、社会にあふれる大量のデータの中から価値あるものを見極め活用できる能力を育てます。

情報処理センター　尾崎 拓郎 助教

学生には最低限のICTスキルを身に付けてもらいたいものの、大学で整備している端末の数が限られ、パソコン実習室の予約も取り辛い状況が続いていました。誰もがパソコンを利用できるようにするため、他大学の状況を調査した上で、必携化に至りました。これに合わせ、学内で快適にインターネットが使える環境を整備し、ICT教育支援ルームでのサポート体制を整えるとともに、大学で包括契約したウイルス対策ソフトの無償提供などの様々な支援を行っています。

スマートフォンには慣れているけれどパソコンはほとんど使ったことがないという学生が多いです。使わないから、パソコンならではの便利さというものを根本的に知らず、全部スマートフォンでやろうとします。そうではなくて、パソコンもスマートフォンも鉛筆も、状況に応じて使い分ける道具の一つだと考えてほしい。そして、自分の道具であるからには、セットアップやエラー対応などパソコンそのものの管理を自分でできるようになってほしいです。

ICT教育支援ルームでは、パソコンをもっと活用してもらうため、最初のセットアップから、ワード講習会やタイピング講座、画像編集ソフトの使い方相談など、基本から応用まで幅広くサポートします。困ったときやワンランク上のスキル獲得をめざす際にはぜひルームに来て、ICTスキルを伸ばしてほしいです。

Pick Up

ICTのお悩みはお任せ「ICT教育支援ルーム」

情報技術に関する知識や経験が豊富なスタッフが、ケースに応じて丁寧にサポートします。

- ICTスキルを高める研修会の実施
- パソコン・タブレットなどの使い方相談
- 動画編集用パソコンや大型ビデオカメラなどの機器・設備の管理、貸出

新任副学長紹介

和田良彦（わだ よしひこ）副学長に聞く!

【略歴】
2014年4月～2015年3月　大阪府教育センター所長
2015年4月～2016年3月　大阪府教育委員会事務局教育監
2016年4月～2017年3月　大阪府教育庁教育監
2017年4月～　副学長、教職教育研究センター教授

「子どもの頃から『なんでもやってみよう』という性格。好奇心旺盛です」と話す和田良彦副学長。キャリアスタートは大阪府立松原高校の教員でした。「ロールモデルは、中学の先生。友達同士の仲間関係を大事にしてくれて、自分もそんな先生になりたいと思っていました」。就任した時は第二次ベビーブーム世代が学齢期を迎え生徒が急増、校内暴力などが社会的な問題となっていた時代でした。「48人学級で10クラス以上という時もあり、忙しくて、辛いと思うこともありました。それでもやっていけたのは、同年代の若い先生が多く、励まし合い、愚痴をこぼして、お互いに支え合っていたから」と振り返ります。松原高校での教員生活は18年におよびます。

転機は、40歳を目前にやってきます。「次の人生を考える時期でした。校長からもこのまま現場の教員でいるのか考えるよう言われ、違う場所でやってみようと決めました」。大阪府教育委員会で社会教育主事補となり、授業の対象が高校生から大人に変わります。「高校生に教えている時は、『これをわかりなさい』というような、ある意味上から目線な部分がありました。でも多様な経験を持つ大人に授業をするようになって、『共に学ぶ』という感覚が身につきました」。意識が変わった貴重な経験でした。その後大阪府立柴島高校校長、大阪教育委員会教育振興室、大阪府教育センター所長を経て、大阪府教育庁教育監となります。「人事異動によって、人としての幅広さが身につくと同時に、人脈が広がりました。例えば校長時代のPTAのOBとは、今も年1回集まる機会があります」。それぞれの配属先で、今も続く人との繋がりを数多く得ました。

そして、今春から大学の教壇へ。現職教員や社会人経験のある学生も多い大学院の授業も担当することになり、当初は不安もあったといいます。しかし今では「お互いの持っている部分をさらけ出して、やり取りをする。不足していることは勉強して、さらにバージョンアップして伝えられるようにしようと思っています」。2か月がたち、だんだんとペースがつかめてきました。

教員に求められる資質は今も昔も変わらず、「人が好き」であることと考えています。「先生がまず子どもを好きにならないと、子どもが先生を好きになれない。1人ずつ良い所を見つけて好きになることが大事」。授業の技術や課題に立ち向うのはそれからだといいます。「あとは、遊びも含めて学生時代にいろんな体験をして欲しい。学校現場はそういう経験が活かされるところです。『なんでもやってみよう』の精神で、どんどん遊んで」と笑います。

大学には、高校教員の養成にも力をいれてほしいと考えています。「高校教員になる人は専門的な知識はあるが、授業づくりのような教育に関する知識が乏しい場合が多い。しかし、大教の学生は『教育』をしっかり学んだ上で、専門性がついている。特に、課題のある生徒が多い学校などで活躍してほしい」。教員養成大学ならではの教える力をもっと高校にと望みます。

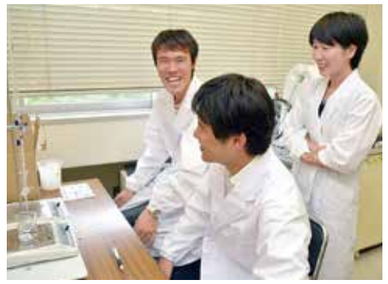
副学長としての抱負は、地元の教育課題を吸い上げ、それを担える学生を養成すること。「大阪という地域に根差した教育活動が必要。まずは教育委員会と連絡を密にして、連携を図っていくのが自分の役割だと思っています。また、現職教員の学ぶ機会をもっと作っていきたい。『学び続ける教員』が求められていますが、教員をしながら学ぶのは時間的に難しい。例えば、授業がなく時間をとりやすい試験期間中の午後に講座を実施するなど、参加しやすいよう工夫していきたい」。大阪の教育行政を知り尽くしたその手腕に期待が高まります。

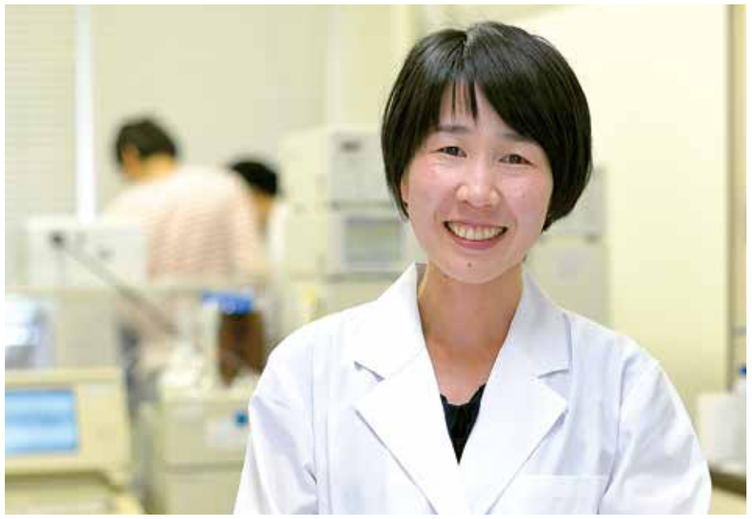
VISIT THE LAB　ラボ訪問

インタビュー動画が見られます。大教大NAVI 天

研究者であり続ける

理数情報講座
堀 真子 准教授
HORI MASAKO





高校時代の得意科目は国語、でも好きな科目は物理でした。「世の中の現象が1つの公式で表される。それってすごいなと思っていました」。この世の中の成り立ちを理解したい、そんな思いから、大学では地球科学を専攻します。

広島大学へ進学し、博士課程後期修了まで過ごしました。研究が楽しくなり始めたのは修士課程の頃。「それぞれ専門分野を持つようになって、同期の子たちとはお互いを認めあえる存在だったと思います」。自分の取り組む研究以外の分野にも興味がつきず、もっといろんなものが見たいと、違う研究室の友人のフィールドワークに同行することもよくありました。学業だけでなく、瀬戸内海での夜釣り、尾道へのドライブ、友人の家に集まっての家飲みと、広島での学生生活を楽しみます。

研究者としてやっていこうと特段決意したことはありません。ただ修士課程で既存の仮説を覆す研究結果を出したことから、その研究を完成させたいという一心で博士課程へ進みました。「迷いは全然ありませんでした。自分がどこまで行けるか試したいと思っていました」

卒業後、日本学術振興会特別研究員、台湾国立成功大学博士研究員、東京大学大気海洋研究所特任研究員などを経て本学に着任します。本学の第一印象は、「山の上にあって、自然がいっぱい」。広島大学での学生時代を思い出し、親近感を抱いたといいます。

現在は、炭酸塩堆積物や貝殻を分析して過去の地球環境を解明する研究に取り組んでいます。堆積物や貝殻を構成する元素などには、鉱物が沈殿した時の周囲の環境情報が間接的に記録されています。この情報を手がかりに、過去の環境や物質循環を復元することができないか探ります。研究にはフィールドワークが欠かせません。「今は温泉の調査をしているので、ゼミ生と一緒に奈良の温泉で試料を採取し、それを実験室で分析します」。学生時代もずっとフィールドワークにでていたので、外に出ないとちょっと物足りない感じがするのだとか。

教員という立場で学生を見ていると「答えを急いでいる」ように感じるといいます。「正解を揃えることに行動が集約されていて、最短距離を行こうとする。もっと試行錯誤して、いろいろやってみればいいのに。回り道はしんどいです。でも、そうやって自力で答えを探すから、それを将来の糧とするために頑張れるのではないでしょうか」

今後の目標は、研究者であり続けること。では、優れた研究者とは？「不可解な現象を前にして、それを例外だとはじいてしまうのは簡単ですが、そこで持っている知識を組み合わせて新しい仮説を立て、さらにそれを実証まで持っていくには、対象への根気強い観察と深い洞察力が必要です。そういう人に出会うと、目から鱗が落ちるというか、素直にすごいな、と感動します。わたしは天才じゃないけれど、地道な観察を続けていくことで重要な発見に立ち会える可能性がある。そういう希望を持っています」

2児の母でもあり、仕事と子育てに追われる毎日です。最近の癒しは、育てている青虫の成長を見守ること。「娘が生き物を怖がっていたのでなんとかしようと飼い始めたのですが、私が一番楽しんでいます。食べた分だけ大きくなって、達成感があります。『はらぺこあおむし』という絵本がありますが、まさにその世界の再現ですね」。質問の一つ一つに、じっと考えてから、丁寧に言葉を紡ぎます。「自分を過大評価しないんです」と控えめな様子とは反対に、その言葉からは筋の通った凛とした姿が見えてきます。

Students Now!

スチューデント ナウ

大教大 NAVI 天

インタビュー動画が見られます。

「もう一歩」を踏み出すサポートを

教養学科文化研究専攻欧米言語文化コース 4回生　**松井 千枝**（まつい ちえ）さん（大阪府立泉陽高等学校卒）

「大学に入ったら海外に行ってみようと思っていました」と語る松井千枝さん。高校生の時、オーストラリアに行ったのをきっかけに、海外に興味を持ちます。「英語がわからなくて、ホームステイ先の家族と全然話せなかった。身振り手振りで頑張ったけど、もっと英語が話せたらちゃんと伝えられるのに、と悔しくて。いかに英語が役立つかを実感しました」。将来は英語の教員になろうと決めます。教員養成課程ではなく教養学科に入学した理由は、教育という視点から英語を学ぶのではなく、英語そのものを深く学びたいと思ったからです。

入学後は、アメリカ、タイなど海外へ次々に飛び出していきます。中でも、国際ボランティアサークルの活動で訪れたフィリピンが一番印象深い経験でした。「大学が主導する活動ではないので、自分たちでやることを決めます。サークルの皆と相談して計画書を作り、それを現地のNGOの人に修正してもらうという過程は、とても勉強になりました」。時には「そこを変えるとこの企画の意味がなくなる。譲れない」と交渉することもあったと言います。現地では生活スタイルや文化の違いに戸惑いましたが、「滞在するうちに人の優しさが伝わってきて、他人を思いやる根本の部分は同じだと感じました。共通するところと違うところがあって、皆それぞれの幸せを持っていると気づきました」。いろんな生き方をもっと見てみたいと思うきっかけになった体験でした。

海外での経験を活かして、外国語学習支援ルーム（GLC）でサポーターをしています。「語学を勉強したい人、留学したい人、留学生と話してみたい人、漠然と海外に興味を持っている人など、たくさんの人がGLCに訪れます。サポーターとして、自身の経験を話したり、こういう人がいるから話を聞いてみたらと友人を紹介したりしています」。少しでも英語や海外に興味を持ってほしいという思いで活動しています。

サークルや学業に忙しくする傍ら、大阪市内の小学校で児童の放課後支援を行う活動にも参加しています。大学で勉強するだけではなく、実際に教育現場を見ておきたいと思ったことが始めたきっかけです。「ずっと通っている小学校は外国籍の子どもが多くいます。私はそういう環境で育っていないので、これはいい経験になると思いました」。放課後に集まってくる子どもたちの宿題を見たり、一緒に遊んだりしています。「子どもたちは、同じ本を読んでいても感じ方や目をつけるポイントが違ったり、突然訳の分からない行動をしたりします。とても面白く、勉強になります」。めざす教師像は、“もう一歩”の成長をサポートできる先生。「一人ではここまでしかいけない、これ以上はやる気がでない、というような限界の一歩先へと進めるよう、子どもたちの興味を誘って、やってみようかなと思わせる。そんな後押しができるようになりたい」

8月からフィンランドにある本学の協定校へ交換留学生として派遣されることが決まっています。「フィンランドは英語が母語ではないにも関わらず、上手に話せる人が多い。英語を母語としない人が英語を教えるためのプログラムが発達しているからだと聞きます。現地では大学で勉強するだけでなく、近隣の学校にたくさん通って、どのような教育をしているのか学びたい」と意気込みます。留学には不安もありますが、「やらない理由はいくらでも見つけられる。でも私はとにかく興味があったら何でも飛び込んでみようという性格。恐れずに、たくさん友達を作りたい」と笑顔を見せます。天真爛漫な彼女の目には、好奇心があふれています。

卒業生 CATCH!

そつぎょうせいキャッチ！

大阪教育大学を卒業して
社会で活躍するOB・OGに
近況や学生時代のアレコレを
インタビューしてきました。

「日の当たりにくい場所にこそ支援を」

菅野 幸里さん

SUGANO YUKISATO

社会福祉士、スクールソーシャルワーカー

（2004年度 教養学科 人間科学専攻 発達人間学コース 卒業）

「日が当たりにくい、支援の難しいケースへアクセスしていきたい」。そう語るのは社会福祉士・スクールソーシャルワーカー（以下、SSW）の菅野幸里さん。

不登校、いじめ、暴力行為といった子どもの問題の背景には、子ども自身の性格などの「個人」の問題だけでなく、家庭・友人関係・地域・学校など、子どもの置かれている「環境」の問題があります。SSWとは、これらの「環境」にも働きかけて子どもの状態を改善していくために、学校や関連機関と連携して対応にあたる専門職のことです。

「ケースごとの対応だけでなく、学校の組織体制の中に入って様々な会議に出席することもあります。学校現場には児童虐待や貧困等、福祉分野との連携が必要なケースも多い」。自身を、子どもと先生、担任と管理職、学校と関係機関などを「繋ぐ人」だと表現します。「先生方と一緒に迷い、考え、調べ、失敗し、解決をめざしていく仕事です」。教員と協働していくことに最も重きを置いています。

現職に就くきっかけは、自身の家庭環境と、大学時代の出会いでした。「1つは、自分自身の生い立ちから、子どもは家庭環境に大きく影響されると気づいたこと。もう1つは、2人の障がい者と出会ったことです。ともに重度の脳性麻痺の方でしたが、社会との関わり方は真逆でした。1人は介護者と共に車いすで外出もする、食事やお風呂などなんでも自分がやりたいときやりたいことをするという生活をされていました。一方、在宅訪問活動で知り合った方は15年以上家から出たことがなく、農業を営むご高齢の両親が毎日介護をされていました。『外に行きましょう！』と自宅を訪ねてもご両親に断られ、会うまでに2年、前任者も含めると10年もかかりました」。二人はなぜこんなにも生活が違うのかと疑問を抱きながら関わり続けるうちに、この違いは個人の特性ではなく、おかれている環境に起因するのではと思うようになりました。「例えば、外に出られない人の外出を妨げている要因を自分が取り除けたら、その人は外に出ていけるかもしれない。環境とは何かを突き詰めてみたら、自分自身も誰かの『環境』の1つだと気づきました」。この出会いと自身の子ども時代がリンクし、子どもの環境に携わる仕事がしたいと考えるようになります。卒業後、障がい者支援のNPOで働きながら社会福祉士の資格を取得し、SSWとして活動を始めます。

SSWになって7年目、迷いが生じてきたといいます。「子どもより先生からの相談に対応することのほうが多くなりました。子どもと関わる時間が少なくなっているのに、子どもについて助言していることに矛盾を覚えました」。そこでSSWの仕事を減らし、一般社団法人「こもれび」で、子どもの夜の居場所づくりなど新しい活動を始めます。「一番やりたかったのが、訪問型学習支援です。学校に行けない子、学校や関係機関だけでは支援の難しい子ども対象に、家に行って関係を築きながら、一緒に学習や目標探しをします」

こもれびでの取り組みは、SSWの仕事の中で「こういう資源があれば、こんな支援者がいたら」と思ったことを形にしています。「実際に子どもと関わって様々なケースに直接向き合いながら、SSWとしても活動する。そうすることで、SSWの活動もより説得力が生まれると感じています」。SSWとこもれびでの活動、どちらを失っても自分の中のバランスを保てなくなると言います。

学生時代は、介護や在宅訪問等のボランティア活動と部活動に明け暮れた菅野さん。「僕の一番好きな言葉は『当事者からの学び』。特に教師になる人は、背景も含めて子どものことを深く知り、そこから学ぶ姿勢を持ってほしい」と後輩にエールを送ります。

OKU女子 彼女の気になる

BAGの中身

夢や希望でいっぱいの大教大生のカバンの中を特別に見せてもらいました。

お琴の楽譜
サークル「邦楽研究会」で琴を練習中。

扇子
まだ6月なのに既に手ばなすことができない扇子。

ピーナッツ
小腹がすいた時用にピーナッツを小分けして持ち歩いています。

日本語の教科書
レポートを書くための日本語を勉強中。

落ち込んだ時は、グレーか明るい色。
晴れやかな気分の時は
淡い色を着ます！

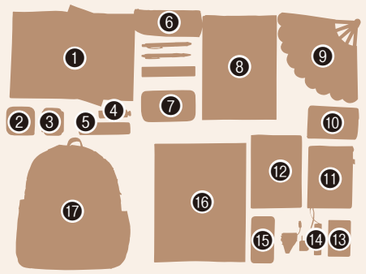
日本の暑さに負けない
情熱の持ち主！
ナジモワ・クリスティーナさん
教員研修留学生
ロシア出身

日本語の魅力をロシアへ！

A棟2階を歩いていると、外国語学習支援ルーム（GLC）から英語と日本語で生き生きと話す声が聞こえてきました。声の主はロシアからの留学生、ナジモワ・クリスティーナさん。カバンを見せてもらうと、まず出てきたのはカラフルな扇子。初夏でも既に暑くてたまらないのに、真夏は40度近くになると聞いてとても不安なのだそう。でも「花火大会には絶対行きたい」と目を輝かせます。

ロシアでは日本語教員として働いていました。「ロシア人学生向けのわかり易い漢字の教え方」を研究しようと、大阪教育大学にやって来ました。所属するのは書道ゼミ。ロシアで自身の授業に書道を取り入れたいと考えたからです。

留学生活の目標を聞くと、「研究を頑張るのはもちろんですが、その他に琴を上手に弾けるようになることと、日本語能力試験1級に合格すること」と言います。「ここで研究したことを持ち帰って、地元ウラジオストクの大学で日本語を教えたい」と話すナジモワさん。暑さに負けず、日本の生活を満喫しています。



❶琴の楽譜 ❷ピーナッツ ❸薬入れ ❹グロス ❺消毒スプレー ❻筆箱 ❼サングラス ❽日本語の教科書 ❾扇子 ❿財布 ⓫手帳 ⓬大学から配布された学生生活案内 ⓭定期入れ ⓮バッテリー ⓯スマートフォン ⓰書道道具 ⓱リュック

大教大NAVI 天

オフショット動画が見られます。

大阪教育大学
附属学校園ウォッチ
Affiliated School | Osaka Kyoiku University

安全な学校誓い、附属池田小「祈りと誓いの集い」を実施

平成13年6月8日、大阪教育大学附属池田小学校に刃物を持った男が侵入し、8人の児童の命が奪われ、13人の児童と2人の教員が負傷しました。事件から16年を迎えた6月8日、同小で追悼式典「祈りと誓いの集い」があり、児童、保護者、教職員ら1300人が出席しました。午前10時12分、犠牲になった8人の名が刻まれた「祈りと誓いの塔」の鐘が児童代表の手で鳴らされ、出席者全員が黙とうを捧げて冥福を祈りました。

同小で唯一、事件当時から在籍する教員である佐々木靖校長は、参列した6年生児童たちに「今の安全の取り組みが、事件当時の子どもたち、そして保護者の皆さんや先生たちの気持ちがいっぱいつまったものであることを忘れないでほしい」と語りかけ、「事件を決して風化させることなく、『祈りと誓いの塔』が建てられた深い思いを受け継いでいけるよう努力を続けます」と誓いました。続いて6年生の代表児童3人が、命の尊さや学校安全の努力について学んだことを引き継ぎ、誰もが安心できる安全な学校や世界を作っていきたい、と決意を述べました。

式典後に設けられた献花台には、児童や保護者らの長蛇の列ができました。花を供えた児童の一人は「式典のときは、亡くなったお兄さん、お姉さんがどんな気持ちだったかを考えていた」と話しました。保護者からは「集いに参加し、直接ここの空気を感じることはとても重要だと感じています。毎年これだけの人が集まるのは、事件を風化させないという思いが受け継がれているからだと思います」「多くの人は、自分の子は安全に大きくなるのだと思い込んでいる部分がありますが、そうではないと毎年実感し、学ばせていただいています」といった声が寄せられました。

ゼミ室こぼれ話 第4話

《 養護教育講座看護学研究室 》

橋弥あかね先生の看護学ゼミには、女子ばかり5人が所属しています。養護教諭をめざし、教員採用試験に向けて一緒に勉強したり、教育実習中は相談しあったりと仲の良いゼミです。

時には雑談に花が咲くこともあります。今日の話題は「希望の校種」。私はまだ決めかねていますが、ゼミ内では高校派が2人、小学校派が2人と拮抗しています。「高校は保健室へ来る人数が少ないから、一人ひとりと深くかかわれる」「高校で、受験などの悩みを抱える生徒としっかり向き合いたい」「小学生はスポンジみたいになんでも吸収する。教えたことが考え方の根っこの部分になっていくから、やりがいがある」「高校は怪我も心の問題も深刻だから、対応できるようにしっかり学ばないと」と、どの意見にも頷いてしまいます。

「教育」「教員」としての視点が身につくのは、教育大学の養護教諭養成課程だからこそ。より「教員」としての力がつきます。私は次の実習で中学校に行くので、「教員」として子ども達と接しながら、希望校種についてよく考えてみようと思います。

（島田美穂さん　学部4回生）

〈キリトリ〉✂

天遊 vol.42 アンケート

●本号でよかった記事を下から選んでください。
（3つまで。その他は具体的にお書きください。）
【　　】【　　】【　　】
（その他　　）

①ReBorn2017　②新任副学長紹介　③ラボ訪問
④STUDENTS NOW!　⑤卒業生キャッチ　⑥BAGの中身
⑦附属学校園ウォッチ　⑧ゼミ室こぼれ話　⑨TOPICS

●取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。
（　　）

●本誌をどこで手にされましたか。
（　　）

●本誌をお読みになってのご意見・ご感想などをお聞かせください。

●次号以降、毎号『天遊』の送付を希望される方は記載をお願いします。
（一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。）

どちらかに☑をしてください	□ 次号以降、毎号『天遊』を送付希望します。 □ 今後『天遊』の送付を停止します。
ご住所 〒	
お名前	
お電話番号	

※お預かりした個人情報は広報誌「天遊」の送付以外には使用いたしません。

✂〈キリトリ〉

01 いざ、教員採用試験へ。壮行会を開催

教員採用試験を目前に控えた6月21日(水)、「教員採用試験壮行会」を開催しました。これは、学部生・大学院生を全学挙げて応援し、自信をもって試験に挑んでもらおうと今回初めて実施したもので、約200人が参加しました。

はじめに入口豊理事・副学長が「生涯賃金数億円の人材を決める試験だけに、採用側も必死。これまでやってきたことを出し切って、合格を勝ち取ってほしい」と激励しました。続いて、今年3月まで大阪府教育庁で教育監を務めた和田良彦副学長が「直前セミナー」として、求められる人物像や面接のコツ、筆記試験対策などを約1時間にわたり講演。「教育だけでなく、いろんなことに興味・関心を持っている人が求められる。もっと自分の良さをアピールしてほしい」とアドバイスをしました。最後に、手取義宏キャリア支援センター長の掛け声で、全員が「絶対合格するぞ！エイエイオー！」と拳を振り上げ、気持ちを奮い立たせました。

堺市の小学校教員を受験する女子学生は「面接では、ありのままの自分を伝えていこうと思った。やれることは何でもやって、夢をかなえたい」と決意を語りました。奈良県の小学校教員を受験する男子学生は「踏み込んだ話を聴けて有意義だった。絶対に合格して、立派な教師になりたい」と力を込めました。

02 本学教員が南極観測隊に参加、報告会を開催

教育協働学科理数情報講座の小西啓之教授が、昨秋から今春にかけて参加した第58次南極観測隊(夏隊)の報告会を開催し、学生と教員25人が参加しました。

小西教授の南極観測隊への参加はこれが2回目で、今回は、昭和基地近くの「S17観測拠点」で、45日間にわたり観測活動を行いました。調査したのは、日射量、気温、風速、雪質などの条件による氷床表面からの昇華蒸発量の変化で、海からの水蒸気が届かない南極内陸部に雪の元となる水蒸気がどのように運ばれるかを解明する手がかりとなります。

報告会では、同拠点で計測した気象データを示し、滞在中に最大風速30mのブリザードがあったことや、南極では風向きがほぼ常に一定であることなど、現地の気候を説明しました。さらに、夜も沈まない太陽の動画や、観測拠点に風呂がないため屋外で洗髪する様子など、数多くの映像や写真を紹介し、実際の生活について話しました。

参加した学生の一人は「日本にいたら想像もつかない極地での生活を知ることができて、とても興味深かった」と感想を寄せました。また、今年の第59次南極観測隊に夏隊員として参加予定の杉浦裕紀さん(大学院理科教育専攻1回生)は、「南極に行ったら、太陽の光や空の青さを観測します。南極は人間の活動が極端に少ないので、それが空の色にどのくらい影響しているのかを調べます」と話しました。

〈キリトリ〉

料金受取人払郵便

柏原局
承　認
411

差出有効期間
平成30年
3月31日まで

切手不要

郵便はがき

5 8 2 − 8 7 0 5

(受取人)
大阪府柏原市旭ヶ丘4−698−1
大阪教育大学広報室 行

〈キリトリ〉

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

①本学学生	②本学卒業生	③本学保護者
④本学教職員	⑤附属学校生	⑥附属学校保護者
⑦附属学校卒業生	⑧附属学校教職員	⑨名誉教授
⑩教育委員会関係者	⑪他大学教職員	⑫他大学学生
⑬その他(　　)		

公式Twitter はじめました
https://twitter.com/OsakaKyoikuUniv

公式facebookページ
https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv

公式Instagramページ
https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv/

各種イベント、ニュース等を配信しています。
是非フォローしてください。

公式アプリケーション
Android・iOS
スマートフォン対応アプリ

天遊の動画も見れる

大教大NAVI
大阪教育大学入試ナビゲーター

取材時のオフショットや、紙面では伝えきれないイキイキとした学生・熱意のこもった教授などのナマの声を動画で配信!
〈詳しい使い方はホームページをご参照ください〉

App Store・Google Playから検索。
Available on the iPhone App Store　ANDROID APP ON Google play　大教大

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。

本誌はユニバーサルデザインフォントを使用し、再生紙に印刷しています。
この印刷物は、16,000部を768,000円で、すなわち1部48円で作成しました。

[天遊 vol.42] 2017年7月発行　企画・編集・発行／国立大学法人大阪教育大学広報室 〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1 TEL.072-978-3344 FAX.072-978-3225 E-mail kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp